

たかけい学報

高経大生の
キャンパスライフを
サポートする情報誌

The Bulletin of Takasaki City University of Economics



特集

p.1-5

基礎力としての初年次教育

p.6

留学体験記

p.7-8

研究室紹介

p.9-10

創立60周年記念式典開催報告

p.11

学生クローズアップ

p.12

ふるさとを語る

p.13

鶴鷹祭 / 三扇祭

p.14-15

たかけいINFORMATION

no.98

基礎力としての初年次教育

— どの大学にもない授業が、ここにある! —

経済学部「日本語リテラシー科目」

日本語部会長 名和 賢美 (経済学部准教授)

A

「経済学部においては、後期中等教育から高等教育への円滑な移行のための導入教育が十分とはいえないため、改善が望まれる。」(2010年度受審結果)



B

「貴大学の特徴的な取組みとして、文書作成力・論理的表現力・批判的読解力などの専門教育に必要な基礎力を定着させる導入教育を実施し、さらに教育内容の改善・充実を図っていることがあげられる。」「大学教育における専門教育に必要な日本語運用力を涵養していることは高く評価できる。」(2016年度受審結果)



※学校教育法の規定により、大学は7年以内ごとに認証評価機関による評価を受けることとされています。

日本語リテラシー科目とは?

上記2つの評価は、高崎経済大学が「大学」としてふさわしいかどうかを大学基準協会が審査した結果(「高崎経済大学に対する大学評価(認証評価)結果」)の一部です。経済学部の新入生向け導入教育について、Aでは指摘されていましたが、Bではとても良いと花まるを頂きました。AとBとの間に、一体何が起ったのでしょうか。その正体が2014年4月から始まった日本語リテラシー科目です。

「リテラシー(literacy)」とはもともとは読み書きの能力という意味であり、「日本語リテラシー」とは日本語を実社会や大学生活で使いこなす力と言えます。この能力を高めるために、経済学部では1年生前期に「日本語リテラシーI」を、同後期に「日本語リテラシーII」を初年次教育として全員が履修します。40クラスに分かれる前期科目では、1クラスあたり13名程度の少人数制で、①人の話をただポーッと聞く、②思いつくままにグラフや文章を書く、③字面を鵜呑みにして文章を読む、こうした態度からの脱却を目指します。さらに20クラス制の後期科目では、組織の役割を体験するグループ学習を通じて、コミュニケーション能力も培いながら、日本語運用力をさらに鍛えます。

また本科目では、1人暮らしなど高校時代から生活環境が大きく変わった新入生に対して、大学での「とりあえずの居場所」となるようにも配慮しています。少人数制で1人1人を観察できるため、気がかりな学生を早期発見でき、本科目開設以降は1年前期の休・退学者が激減しました。

経済学部では、以上のような日本語リテラシー科目を大学生活における学びのスタート、すなわち初年次教育として用意し、全国各地からの新入生の入学を心待ちにしています。

入学当初に、「高崎経済大学を選んだ理由は?」というテーマで作文を書かせてみたらこのような感じでしたが…(涙)

授業設計者の根底にある思い

「日本人に日本語を教えるなんて、大学もここまで落ちぶれてしまったか」と思われた方がいるかもしれませんが。しかしそうではなく、むしろ欧米の伝統ある大学では当然のように行われてきたことが、ようやく日本でも普及しつつあるというのが現状なのです。例えばハーバード大学では、新入生に対して英語を使いこなす力をそれはそれは厳しく鍛える初年次教育が実施されてきました。パリ大学では、もちろんフランス語の運用力でした。つまりは、母国語リテラシーの向上は新入生に必須とみなされてきたのです。

また、明治初期に福沢諭吉は「なにはさておき、今の日本人は、今の日本語を巧みに用ひて、弁舌の上達せんことを勉むべきなり。」(『学問のすゝめ』第17編)と、日本人は日本語でのスピーチ能力を高めよと唱えました。ここでのポイントは「なにはさておき」という語です。この言葉は『広辞苑』によれば「他の事はそのままにおいても、これだけは」という意味であり、福沢が念頭に置いていたのは、文明開化当時の学生が強く学ぼうとしていたもの、つまり英語です。「そんなら必死に英語を勉強するよりも前に、まず第一にやるべきことがあるぞ!」と彼は言いたかったのです。

この福沢の主張は、グローバル化を声高に叫び英語力強化に取り組んでいる現在にも、全く同様に当てはまります。しかも、大学生が英語の運用力を高めるためには、英語学習だけでなく、実は日本語を使いこなす力の向上もまた重要な成長要因となります。この点については、本科目の型作文を学んだあとには英語の論理性が高まっていると経済学部英語教員からも評価されています。

砕けて言えば、「とりあえず(なま)」のようなことかもしれません。大学生生活の学びは「とりあえず日本語」、日本語を使いこなす力を学ばないと先には上手く進めません。その「とりあえず」のあとも、社会人になってからも引き続き日本語を大事にする学生の輩出を、日本語リテラシー科目では目指しているのです。



受講者の声



タイムズモビリティネットワークス(株) 柳沼 茜音 (経済学部 平成28年卒)

日本語リテラシー科目は私の1つ下の学年から始まりましたが、その授業内容の一部は名和ゼミの活動として2年後期に経験しました。新入生の必修科目の核となることを試験的に学んでいたのです。その実験を通して身についた能力は多々ありますが、特に役に立ったことが2つあります。

1つ目は、文章作成への抵抗感の軽減です。三分法の型作文は名和先生直伝の基礎的な作文法であり、インパクトのある小見出しで始めるという特徴的な文章構成なのですが、何度も繰り返し書くと、いつの間にか作文への苦手意識が薄くなり、しかも文章全体としての面白みも増します。読み手を飽きさせない表現力は、就職活動時のエントリーシートにも生かされ、どの就活生にも負けない出来栄に仕上げられた自信があります。

もう1つは、自己紹介で養った傾聴力と質問力です。一般的に自己紹介は名前を伝えた上で「よろしくお願ひします」と一言付け加えて終了ですが、一味違うものを学びました。出身、入学理由、興味ある科目、将来などの話を聞くことに加えて、その後に設けられている長い質問タイムで、自己紹介をしている人の理解を深めるために聴き手が質問をします。しかも、その一連のやりとりを必死にメモし、後日パソコンで見た目よく文書化しなければなりません。この作業を全員分完成させた頃には、相手の話から疑問や好奇心を持ち会話を広げることが得意になりました。

この2つ目の能力は、社会人になった現在、特に学べてよかったと断言できます。今は主に接客業に従事しているのですが、一方的で機械的な説明ではなく、会話を交わすような接客をすることで、お客様の要望や気持ちを読み取りやすい案内が出ています。また、社内の目上の方と会話する際も共通点や話の切り口を自然と見つけられるので、気兼ねなく相談しやすい職場環境を保っています。

このように日本語リテラシーでは社会人にとって大切な能力がたくさん身につけられます。ぜひ高崎経済大学で将来に役立つことを学んでみませんか?



経済学部1年 小野 海樹

私は静岡大学卒業後、教材関係の訪問販売を4年間していましたが、「もう一度大学で勉強したい」という思いから、高経大に再入学しました。

再入学後、最も印象的な講義のひとつが日本語リテラシー科目です。受講前は、いわゆる「論文の読み方・書き方」のような内容を予想しており、卒業論文を書いた経験のある私としては「今さら必要ない」と感じていましたが、この予想はよい意味で裏切られました。

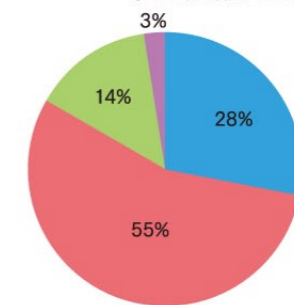
この科目では、前期にはメモの取り方などを学び、後期にはグループ研究が中心となります。これらを通じて「攻めの受講態度」を身につけられると実感しました。高校では「受身」の学習がほとんどであり、「与えられること」が当たり前になっていますが、大学では「自ら学び、考えること」が要求されます。この姿勢は、大学卒業後にも、必ず必要となるでしょう。

加えて、この科目では「人間関係を構築する力」も高まります。私自身も、年齢が離れた集団の中で再び勉強することに不安を感じていましたが、前期の少人数制も後期のグループワークも、さまざまな地域出身の学生と新たな交友関係を築く大きな助けとなりました。

大学には、自らを高められる環境がたくさん用意されています。ただ、それをどのように活用し何をj得るかは、学生自身の行動にかかっています。この問いに答えるヒントとなりうる「攻めの受講態度」を日本語リテラシー科目では身につけることができるのです。

「日本語リテラシーI」における三分法の型作文指導後のアンケート結果

(2017年度新入生561名を対象 [回答率97.3%])



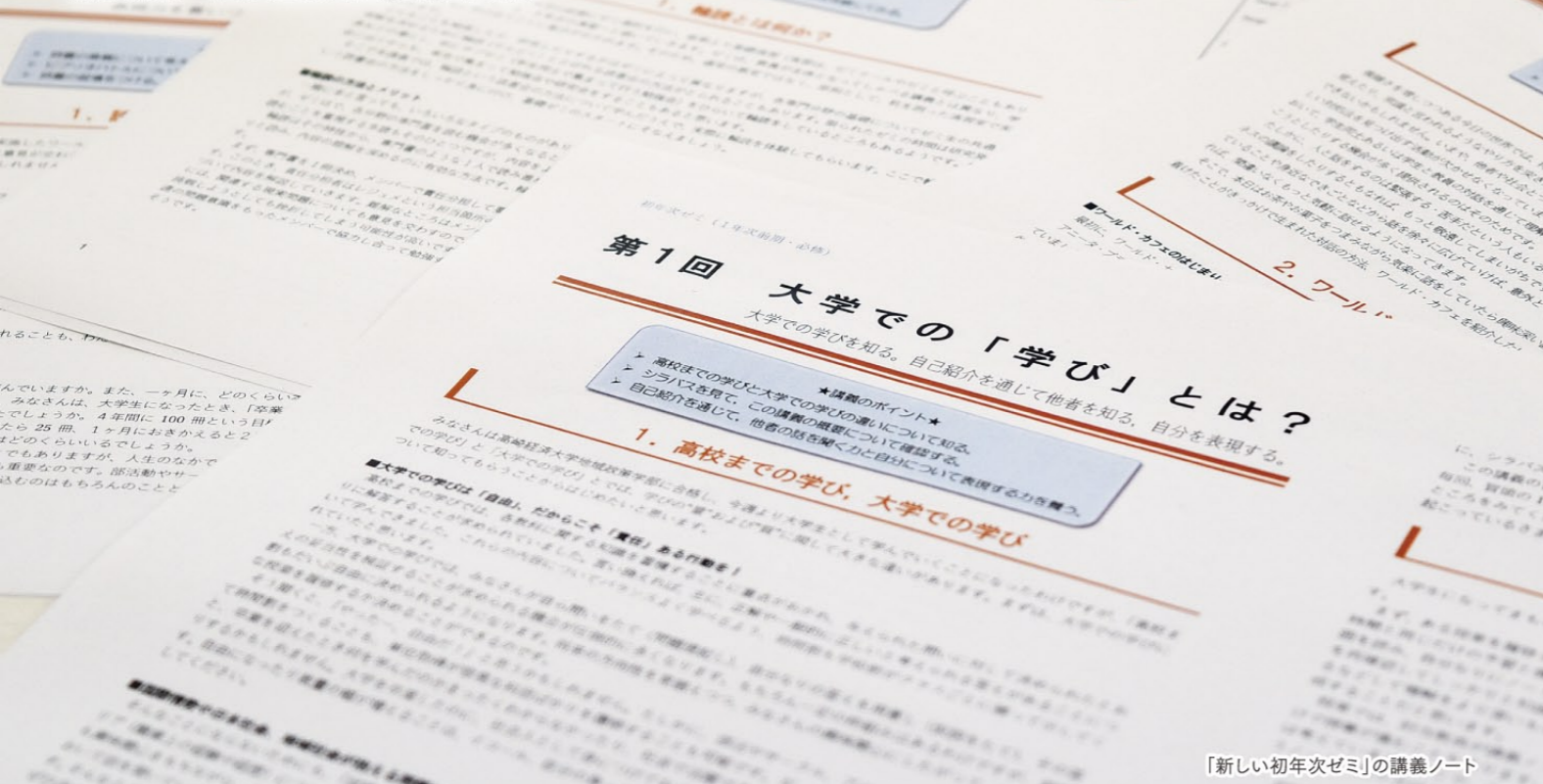
(Q)文章を分かりやすく書けるようになったという実感はありますか?

- とてもある (154名)
- まあまあある (302名)
- どちらともいえない (78名)
- あまりない (13名)
- まったくない (0名)

どこよりも魅力あふれる「新しい初年次ゼミ」を目指して

地域政策学部「初年次ゼミ」

教養教育長 中村 匡克 (地域政策学部教授)



「新しい初年次ゼミ」の講義ノート

入学して最初に出会う授業だからこそ

キャンパスに唯一残る桜が満開になる季節、初年次ゼミの教室へと足を運べば、そこには毎年出会う風景が待っています。期待と不安を同居させながら、まだ知らないお互いが肩を並べ、ぎこちない会話もパタリとやめて視線をこちらに向けてくれる新入生たち。彼・彼女らが放つ独特のこの雰囲気は、多少重苦しくもありますが、適度な緊張感を伴っておりとても心地よいものです。私たちもおそらく抱いていたであろう、この気持ちをずっと持ち続けられたら、どんな素敵な人生が待っているだろうといつも思います。

最初なので自己紹介をしてもらおうと、群馬県や東日本を中心としながらも、全国から集まってきた学生たちだとわかります。地域政策学部が第一志望だったと話す学生もいれば、実は…と正直に教えてくれる学生もいます。いまだに続く知識重視型の教育のなかで、学生たちは学力という評価軸にとらわれがちですが、これからはもっとたくさんの個性が色んな角度から光を当てられるべきです。そう考えると、どこの大学に入ったかよりも、大学で何を学び、どんな力を身につけたか、誰と出会い、どんなことに気づけたかのほうがよほど重要なはず。一人ひとり事情や思いは異なるにせよ、新入生が初めて出会うこの授業を通じて、そんなことに気づかせてあげられたら、地域政策学部で学べてよかったと思ってもらえたら、どんなに嬉しいことでしょう。

「日本語論文指導」から「初年次ゼミ」、そして「新しい初年次ゼミへ」

さて、卒業生のなかには、この科目名を聞いて懐かしく思われた人もいらっしゃるのではないのでしょうか。「日本語論文指導」と言われたほうがピンとくるという人のほうが、まだ多いかもしれませんね。

地域政策学部にはもともと日本語論文指導という選択科目があったのですが、過去に1年次前期の必修科目に変更された経緯があります。これには、大学での学びに必要な基礎スキルを習得してもらうことに加え、入学してまもない学生たちの友人づくりや教員とのコミュニケーションの場として機能させるねらいがありました。

その後、地域政策学部ではカリキュラムそのものの見直しが行われ、2013年度から新カリキュラムがスタートしています。このとき、日本語論文指導の名称も「初年次ゼミ」へと改められましたが、上述の精神はいままでもずっと引き継がれてきました。当時の教務委員会において、到達目標(学問や大学教育への動機づけ、コミュニケーション能力、資料検索能力・情報リテラシー能力、論理的思考能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力)が検討され、シラバスも共通のもの(学習指導や学問への動機付け、コミュニケーション能力の向上、文献・資料検索の方法、レポート・論文の作成方法、プレゼンテーションやディベート)とされました。ただし、実際のところは各担当教員に任されており、いかにして全学生に同じ指導を提供するかが課題とされてきました。

これを受け、2017年度より設置された基礎教育委員会では、教育内容・指導方法が共通化された初年次ゼミを新入生に提供すべく、議論と準備を進めてきました。そこで今日は、『たけい学報』を通じて、2018年度からはじまる「新しい初年次ゼミ」の姿をご紹介します。

「大学で学ぶ=たのしい」をきっかけに学問への扉をひらく

新しい初年次ゼミは、3つのコンセプトにもとづいて設計され、それらを実現させるために提供される教育コンテンツが講義ノートとして用意されたところに特徴があります。

コンセプト1 コミュニケーションを大切にして、「大学はたのしいところ」をみんなで共有する。

新しい初年次ゼミも、新入生の友人づくりや教員とのコミュニケーションの場となることを大いに期待しています。しかし、初回の簡単な自己紹介だけで人間関係を構築するのは、非常に難しいことです。

新しい初年次ゼミでは、ゲーム感覚で参加できなおかつ対話や作業を通じて周囲と密にコミュニケーションをとれる「ワールドカフェ」や「ピブリオバトル」といったコンテンツを用意しています。リラックスした雰囲気の中での対話から新たな発想にたどり着こうとするワールドカフェは、クラスメイトの距離をグッと縮めてくれるはず。お薦めの本を紹介しあうピブリオバトルは、新たな本との出合いをプロデュースしてくれるだけでなく、クラス全体を和やかな雰囲気に包んでくれるでしょう。「大学はたのしいところ」という感覚を共有してもらうことこそ、学生の真の居場所づくりにつながると考えています。

コンセプト2 大学生らしい学習活動を通じて、大学での学びに魅力を感じる。

新生活をはじめたばかりの1年生は、もちろん大学での学びに対して不安もあるでしょうが、やはり期待の方が上回っているのではないのでしょうか。大学での学びに対してもっとも高いモチベーションを持っているのは、まさにこの頃だと思います。そして、このモチベーションをもち続けてもらうには、魅力的なコンテンツの提供が必要不可欠です。

新しい初年次ゼミでは、知識の吸収に重きがおかれた高校までの学びとは一味違う大学らしい(知識のインプットやスキルの習得にとどまらず、アウトプットまで導く)学びとして、「研究室訪問」や「ディベート」といったコンテンツを提供します。研究室訪問では、先生方の研究室をグループで訪れてインタビューし、その結果を報告するという活動を通して、講義のなかだけでは知り得ない学問の魅力を感じ取ることができるでしょう。ディベートでは、グループのなかでの自らの立ち位置を理解しながら、相互に協力しあうことの大切さや難しさを学べるものと期待しています。さらに、社会や地域の問題に関心を寄せるきっかけとなるよう、新聞記事のなかから気になる記事をピックアップして定期的に報告する「1分間スピーチ」も取り入れることになっています。

コンセプト3 基礎演習やその先の土台となる、確実な基礎力を養う。

地域政策学部では、これまで、3年次前期から演習がはじまりましたが、2018年度入学生より、2年次後期から基礎演習がスタートすることになっています。新しい初年次ゼミでは、大学生にとって必要不可欠な基礎スキルのひとつである「輪読とレジュメの作り方」を指導し、学生同士で新しい知識を吸収したり議論を交わしたりする土台づくりを進めることになりました。

どんな分野に進むにせよ、共通に求められる基礎力というものがあります。たとえば、人の話を聞いて理解する力、自ら考え自分の意見や感想を伝える力、そしてそれらの支えとなる整理する力などです。新しい初年次ゼミで提供されるコンテンツは、いずれもこれらの力を養成するものです。これらの能力は大学生活の間だけ役に立つものではなく、就職活動のプロセス、社会人になってから、もちろん地域リーダーにも求められます。新しい初年次ゼミは、これから訪れる予測不可能な将来においても、きっと皆さんの支えとなる基礎力を育ててくれるはず。

講義実施モデル

講義回	時間配分の目安(一講義は90分)		
第1回	講義概要(説明)	自己紹介	1分間スピーチ(解説)
第2回	1分間スピーチ(実践)	ワールドカフェ(解説)	ワールドカフェ(実践)
第3回	〃	研究室訪問・インタビュー(解説)	インタビューの準備(グループワーク)
第4回	〃	ピブリオバトル(解説)	図書館に移動して文献検索
第5回	〃	ディベート(解説)	ディベートの準備(グループワーク)
第6回	〃	ディベート(実践)	
第7回	1分間スピーチ(実践)	研究室訪問・インタビュー(発表)	ピブリオバトル(実践)
第8回	〃	輪読・レジュメ(解説)	質問・相談等
第9回	1分間スピーチ(実践)	レポートの書き方(解説)	
第10回	〃	輪読・レジュメ(実践)	
第11回	〃	輪読・レジュメ(実践)	
第12回	〃	研究室訪問・インタビュー(発表)	ピブリオバトル(実践)
第13回	〃	輪読・レジュメ(実践)	
第14回	〃	輪読・レジュメ(実践)	
第15回	〃	講義の総括・自己評価と今後の抱負	質問・相談等



基礎教育委員会における議論の様子

持っている知識を使える技能へ

「英語新カリキュラム」

石渡 華奈 (経済学部准教授)



2017年4月、経済学部と地域政策学部で共通の「英語新カリキュラム」が開始しました。それまでは、両学部がそれぞれ独立したカリキュラムで英語教育を行っていましたが、「多文化多民族が共存する社会において、英語が使える専門・英語が使える教養人として、互いをより良く理解し、より良くコミュニケーションを図ることを可能とする基本的ツールである英語力を涵養すること」を目的として、全学で一元化したカリキュラムで英語教育を行うことにしたものです。

本学に入学する皆さんは、すでに中高時代あるいは受験勉強の中で、英語に関して多くの知識を身につけていますが、なかなかそれをうまく「使う」ことができません。「使う」機会が限られてきたからです。本学の英語新カリキュラムは、皆さんがすでに持っている知識を実際使える技能へと転換していき、英語を「使う」機会をたくさん提供します。

【必修科目】

必修科目には「General English」と「Business English」の2種類があり、両学部の1・2年生全員が2年間4学期にわたってそれぞれを履修します。どちらの科目も「聴く・話す・読む・書く」の4技能を扱い、総合的に英語力を向上させることを目指しますが、特に、「General English」ではさまざまな話題で自分の考えを発信できる力を、「Business English」は職場でのコミュニケーションに役立つ力を養成します。初級から上級まで習熟度別に編成された20~24人の少人数クラスで、それぞれの英語力に適した授業を展開します。

【副専攻制度】

選択英語科目から所定の単位数を修得すると、副専攻「英語 (Global Communicator Program)」の修了が認定されます。副専攻修了が認定されると「副専攻修了証書」が授与され、また、学業成績通知書と成績単位修得証明書に副専攻の修了が記載されます。在学中に専門以外で積極的に英語学習に取り組んだことが社会的にも評価され、就職活動などでひとつの資格としてアピールできます。



【選択科目 (英語発展)】

学生たちはそれぞれの目的やニーズに合わせて、多彩な約30科目から自由に選択科目を履修できます。選択科目には、4技能の運用能力を社会で実践できるレベルに発展させる科目、高度な英語力の習得や留学後の英語力維持を目的とする科目、時事問題や論理的思考など社会で必要となる知識を身につけ応用する科目、留学や進学に必要な英語力をつけるための科目、TOEICとTOEFLの受験対策を行う科目などがあります。また、TOEICとTOEFLの高得点取得者に単位を認定する科目もあります。



Dublin City University, Ireland

留学体験記

Irish Treasure ~一生の思い出そして親友~

地域政策学部 3年 吉川 淳也



JFP、この3文字が私の留学生活の全てを表しているように思います。意味は、単純にJapanese French Partyで、私と数人の日本人とフランス人で作り上げたInternational Communityです。この集まりのコンセプトとして、お互いの郷土料理を作り、食べ比べしながらお酒を飲み、政治、音楽、授業の話でもりあがりながら、音楽に合わせてダンスして留学生活を楽しもうといったものでした。フランス人のルームメイトと私が率先して行動し、日程や何の料理を作るか、どのような活動にするかなどを考え、参加者のニーズに応えられるように毎週考えていました。週を重ねるごとに人は増えていき、スペイン、アメリカ、ドイツ出身の方も来るようになりました。フランス人の友達と、「おれらならビジネスができる」とよく冗談を言っていました。

しかし、こんな留学生活を送るまでの道のりはとても長く、逃げ出さなくなったことでもありました。そして何よりも、私の留学生活は最悪なスタートで始まりました。アイルランドのダブリン空港に着くと、私のキャリーケースは私の元には届かず、大学の迎えもロストバゲージについて空港に問い合わせる時はいなくなっていました。二時間かけて、寒くて、真っ暗で見たこともない道を一人、GoogleのGPSを頼りに歩きました。廃墟ばかりで、人影もなく、とても怖く思いきり走ったのを今でも鮮明に覚えています。(キャリーバッグは3日後に届きました。乗り継ぎの際のトラブルだったそうです。)翌日、日用品を買うために行ったショッピングセンターで自分の不注意により携帯を無くしました。また、英語が通じなくて、英語が嫌になり、英語の大きな壁に押しつぶされそうにもなりました。一時期、部屋のドアを開けて、ロビーに行くのがものすごく怖くて手が震えていたこともあります。そんな体験をする中で、海外では受け身では何も始まらない、自分からその一歩を踏まないと何も変わらないと感じてきました。だからこそ、ネガティブなことを考えた瞬間に実行し、迷ったらやる、とにかく会話をする機会、交友の場を広げられる場所には必ず行こうと心がけて

いました。授業もディスカッション系の講義を履修し、アカデミックなことも議論できるよう努めていました。教授に英語のことについて相談に行ったこともありました。例え通じていなくても、喋り続け、理解できなかったら何度も聞き返し、そして自らで動き出し、環境を自分で作り出そうと必死にもがきながら生活していました。

最後に、私の留学で最も記憶に残っている出来事について話したいと思います。お別れの会の夜に、警備員の方から少しうるさいと注意を受け、翌日寮の管理人に、私とフランス人の二人が呼び出されました。その際、私は、英語がとても流暢なルームメイトに任せれば良いと思い、聞かれたことだけに答え、罰金のことに関しても受け入れました。しかし彼は受け入れた上で自分の意見を言い、罰金に関しても高すぎると言い張り、結果的に額は半分になりました。その帰り道に彼から、「You have to protect yourself by yourself, sometimes」と言われました。私自身、異国では日本人としてのプライドを持ち、そして強くあらうとしていました。しかし、やはりどこかに甘さがあったのだと実感していました。彼の言葉は胸に刺さり、改めて、自分はまだまだ未熟だなーと感じさせられました。彼には助けてもらってばかりで、いつも励ましてくれて、気にかけてくれて、楽しそうとしてくれて、そして距離がある今でも自分の悩みを聞いてくれ、なんらかのアドバイスをしてくれて感謝しても仕切れません。彼は尊敬できる友人の一人であり、私にとってお兄ちゃんのような存在です。

約1年間という長い間、共に学び、遊び、苦しんだ友人は今では家族のような存在です。私は、英語以上に大きなものを得たような気がします。家族や友人、高崎経済大学の方々を含め多くの人に感謝の気持ちでいっぱいです。これからJunyaという名に恥じぬようグローバルなこの世界で挑戦し続けられる人間でありたいと思っています。

~ Merci ~



いつも一緒に遊ぶ仲間たち



日本での再会を祝って



フランスのアルプスで



みんなからのサプライズ
兄でもありルームメイトの1枚



original JFP Members



集合写真



経済学部 教授 **佐藤 敏久** | **地域政策学部** 教授 **小牧 幸代**

マーケティングの応用(実践)を目指す!

1. プロフィールと担当科目

2007年明治大学大学院商学研究科博士後期課程修了博士(商学)高崎経済大学准教授を経て現職。趣味は音楽、楽器、料理、ラジオなどです。最近では、パンやスイーツ、料理を作る動画ばかり見えています。担当科目は、消費者行動論、マーケティング・コミュニケーション、マーケティングリサーチ、演習(ゼミ)で、群馬県や都内の複数の大学でも教壇に立っています。個人研究の興味は、企業間や個人間で行われるコラボレーションなどの協同的な活動の進化プロセスです。

2. ゼミでの活動内容と活動の成果

現在の2年生で5期です。2017年度の2年生は、夏合宿で基本的なテキストを輪読した後、NTTタウンページ株式会社とコラボして、タウンページ高崎版において、学生目線で高崎の街取材し、紹介する記事を執筆していきます。それが終わると、12月から2月にかけて、博報堂と東京大学が主催するブランド開発コンテスト「BranCo」に参加します。3年生では、資生堂やキリンホールディングス、トヨタファイナンスなどがスポンサーである、広告会社メンバーズ主催のCSV経営(企業も顧客も社会もメリットのある共有価値)のコンテストに参加します。また、高崎市のキングオブパスタに企画、運営から携わります。これらと並行して、4月から取り組み、「Student Innovation College(Sカレ)」に秋と冬(秋カン、冬カン)参加します。これはゼミ対抗で、9テーマの商品企画を行い、実際に商品企画から製品の発売を目指す大会です。今回は22大学26ゼミが参加しています。

4年生は卒業論文執筆と卒論発表会(ゼミ2-4年生全員参加)で自分の卒論発表をします。ほかに、市場調査をしたうえで、学園祭の模擬店にも出店したりもしています。

これまでの成果としては、富士通主催の企業アイデアコンテストで優秀賞、BranCoでは、200を超える参加チームの中から、一次予選を突破、約10チームに選出されました(二次予選敗退)。CSV経営コンテストでは、企業賞を受賞し、2017年度Sカレ秋カンでは、一つのチームがコンセプト1位に選ばれました。冬カンでは9テーマ中2テーマで、テーマ1位を獲得し、実際に製品を市場化できるチャンスを得ました。

3. ゼミ生の就職先

鈴与(株)、高崎信用金庫、藤井産業(株)[商社]、日本生命保険(相)、(株)東邦銀行、第一生命保険(株)、群馬県信用組合、(株)北洋銀行、(株)ジーアングル、(株)JR東日本リテールネット、(株)カラース[広告]、ギークス(株)[ゲームなど]、静岡県労働金庫、(株)清和ビジネス、(株)ポーラファルマ、(株)ファーストリテイリング、(株)井田産業、(株)ベンチャーバンク、フレックス(株)[広告]、(株)ホンダトレーディング[商社]、(株)静岡新聞総合印刷、(株)DHC【2】、アイリスオーヤマ(株)、日本コープ共済生活協同組合連合会、青山ビジネスソリューション(株)[コンサル]、東洋アルミニウム(株)、(株)メンバーズ[広告]、東日本旅客鉄道(株)【2】、(株)アクセラホーム、日本郵便(株)、(株)Wiz[広告]、(株)光通信、(株)本久、クツワ(株)[文房具]、宇都宮市役所、(株)デンソー北海道、イオンモール(株)、上越信用金庫、(株)北日本銀行、群馬トヨタ自動車(株)、東海東京証券(株)、(株)エー・ピーカンパニーなど、製造業、金融、広告、化粧品、IT、流通業、商社、交通、不動産、と多様です。

文化を研究し、ニッチに気づく力と調査力・プレゼン力を磨く

1. フィールドノートを使う

小牧ゼミでは、文化人類学を専門とする教員が、文化研究の指導を行っています。文化は抽象的な概念ですし、時代背景や研究者によって定義も異なります。1980年代には、文化人類学における文化研究のあり方を「表象の危機」と呼んで批判的に考察する研究も登場しました。本ゼミでは、こうした学問の基礎を2年後期のプレゼミで、テキストの輪読を通じて習得します。そして、個人研究のテーマを設定し、3年次は進級論文、4年次は卒業論文の作成に、各自で取り組んでいきます。

研究テーマを決める際に、2年後期に配布するフィールドノートを、まずは自分を対象に使ってみます。常に携帯し、ニュース、新聞、雑誌、読書、部活や講義、バイト、友人との会話など、大学生活のなかで気になったことを、日時・場所・情報源も含めて記録します。無意識を意識化し、聞き流せないこと・見逃さないことを選別して、文字に残し、可視化して俯瞰すると、自分の世界観が浮かび上がってきます。

2. 王道もいいけど、ニッチもね

世界観がイメージできれば、研究テーマも絞れます。本ゼミでは、毎年、個性豊かなゼミ生による独創的な研究が展開されています。ゼミの論文集が図書館2階に展示してありますので、ぜひ目次を開いてみてください。ニッチ(隙間的)な研究の多いことが分かります。王道は、とても魅力的です。しかし、文化研究においては、「ニッチに気づく力」も重要です。工夫次第では、将来、ニッチを王道にすることができるかもしれません。

3. フィールドワークのスキル

研究テーマが決まったら、本ゼミ生は手分けをして、参与観察、ライフヒストリー、インタビュー、アンケートなど、フィールドワークの方法を調べ、発表し、互いに学び合います。フィールドワークは個人で行います。調査の現場では「よい質問」が会話を盛り上げ、信頼関係を築き、調査とデータの質・量を高めることから、内気なゼミ生には特に「よい質問」を準備するよう指導しています。ゼミ生は自分でアポをとり、現場に赴き、失敗や後悔を重ねながら、異なる背景をもつ人と出会い、意外な意見や光景に触れ、データを収集していきます。

4. 個人のスキルが問われる時代

調べることの面白さが分かってくれば、今度は教えることの面白さも学んでほしいと思います。3年次の進級論文でも4年次の卒業論文でも、研究テーマに関する知識がない人にも分かりやすいように、丁寧に言語化・視覚化・文章化して伝えることを心がけます。大学での学びが、そのまま社会で通用するわけではありませんが、メモの習慣、人の話を聞くスキル、自分の考えを伝えるスキルは、社会人になってさらに磨きがかかるよう、土台づくりのお手伝いをしたいと考えています。個人のスキルが問われる時代には、メモの習慣に基づくニッチ発見力、調査力、プレゼン力が、社会人の三大スキルになると思うからです。

創立60周年記念式典開催

平成29年6月25日(日)
群馬音楽センター



6月25日(日)、高崎経済大学創立60周年を記念し、群馬音楽センターにおいて、記念式典及び記念講演を開催しました。

記念式典には、高崎市長をはじめ、国会議員、県議会議員、市議会議員などの来賓や大学関係者ら約1,500人の方々が出席し、会場内はこの日のために全国から集まった多くの同窓生で賑わいました。

式典は、吹奏楽部の伴奏による学旗入場から始まりました。学長及び理事長の式辞に続き、多くの来賓の方々よりご祝辞をいただきました。また、創立60周年に際し、絵画をご寄贈いただいた本学卒業生の三輪光明氏(昭和41年卒)、絵画の額装をご寄附いただいた三扇41会に感謝状を贈呈しました。

式典終了後には、元中国駐劄特命全権大使の丹羽宇一郎氏による記念講演や本学卒業生で落語家の笑福亭瓶吾氏(昭和62年卒)による記念寄席が行われました。



創立60周年記念シンポジウムⅠ

高崎市製造業の特性と振興

7月29日(土)本学1号館111教室にて、高崎市副市長 松本泰夫氏及び高崎商工会議所会頭 原浩一郎氏を来賓に迎え、地域科学研究所の高崎経済大学創立60周年記念シンポジウムⅠ「高崎市製造業の特性と振興」が開催されました(後援:高崎市・高崎商工会議所)。当日は、高崎市内の製造業企業の経営者をはじめ、経済団体関係者、在学生、卒業生など、約80名が熱心な議論に耳を傾けました。

本シンポジウムは、地域科学研究所が今年3月に刊行した『地方製造業の展開—高崎ものづくり再発見』(日本経済評論社)の合評会を兼ねており、駒澤大学経済学部教授 吉田敬一氏に、『地方製造業の展開』の書評と中小企業振興への政策的視点』と題して基調講演をいただきました。

シンポジウムでは、同書で取り上げた高崎市内の製造業7社のうち6社の社長にご登壇いただき、高崎市における企業活動の歴史や現状、今後の経営課題、また行政や金融機関の中小企業支援のあり方などについて語っていただきました。



創立60周年記念シンポジウムⅡ



日本蚕糸業の縮小過程と蚕糸業文化の伝承

12月9日(土)本学図書館ホールにて、地域科学研究所の高崎経済大学創立60周年記念シンポジウムⅡ「日本蚕糸業の縮小過程と蚕糸業文化の伝承」が開催されました。

地域科学研究所では、昨年3月に研究所の発足記念研究プロジェクトの研究成果として『富岡製糸場と群馬の蚕糸業』を刊行し、その際抜いきれなかった日本蚕糸業の衰退過程について研究活動を続けてきました。本シンポジウムでは、政策面と需要面から捉えた日本蚕糸業の衰退過程、海外の世界遺産の実地調査を踏まえた世界遺産と地域振興のあり方、日本各地における蚕糸資料館の歴史的展開とその意義について考察しました。研究プロジェクトメンバーによる研究成果を発表した後、石井寛治東京大学名誉教授に「近代日本の蚕糸業—戦前史と戦後史」と題してご講演いただきました。

絵画の寄贈について



(写真左:三輪光明氏、中央:高木理事長、右:村山学長)

創立60周年を記念し、本学卒業生である画家の三輪光明氏より絵画『天使の飛翔』(2016年現代人気美術作家年鑑洋画部門グランプリ受賞作品)を寄贈いただきました。また、三輪氏の同窓生で組織する「三扇41会」の皆様には、今回のご寄贈にあたり、額装など全般にわたるご支援をいただきました。本学関係者だけでなく、広く市民の皆様にご覧いただけるよう、本学図書館ロビーに展示しております。本学にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



純米吟醸酒
「三扇」
みつおうぎ

本学の創立60周年を記念して、地元高崎市倉沢町の牧野酒造さんに純米吟醸酒(4合瓶720ml)を造っていただきました。高崎経済大学生協にて販売しています。

●問い合わせ先:
高崎経済大学生協
(電話027-343-2024)

学生クローズアップ



陸上競技部 幹事 長 菊池 晃太
地域政策学部 3年



1 高崎経済大学陸上競技部の歴史

陸上競技部の創部は今から56年前の1961年になります。当時、愛好会であった陸上部は部として承認してもらえるよう、当時の体育会であった自治会活動に申請し、正式に部として活動することになりました。同時に関東学生陸上競技連盟に加盟し、北関東国立4大学陸上競技大会へ唯一の公立大学としての参加が許されました。

1963年には北関東5大学陸上競技大会に参加するとともに、翌年1964年の大会を高崎経済大学が主催することについて他の4大学に認められました。また、国公立26大学陸上競技大会に1998年に連盟から承認を受け、正式に参加することになりました。

今、私たちが充実した競技人生を送れているのも前述したような先輩方のご功勞によるものだと思います。

2 高崎経済大学陸上競技部の活躍

私たち陸上部は、競技力向上を最大の目標として活動しています。近年では、箱根駅伝予選会に8年連続で出場しており、長距離ブロックはこの箱根駅伝予選会に出場し歴代の記録を更新し、他の大学に負けじと戦うために毎年、出場資格を得るための厳しい練習に取り組んでいます。しかし、この2、3年は出場することすら危ういこともありました。箱根駅伝予選会に出場するには最低10人が標準記録を更新しなくてはならず本番では20kmを走りきることが必要とされます。出場するのに10人標準を切り、尚且つ本番に向け、怪我、体調に気を付けて出場し続けることは部員が少ない本学にとって非常に難しいことなのです。ですが、こうして連続出場できているのは、選手の努力は当然のことながら、周りのサポートは非常に大きいです。予選会に出場した、歴代のOBや後援会、大学関係の皆様、選手以外の部員たち、そしていつも支えてくれる家族。毎年、出場する選手が口をそろえて言うことは「感謝の気持ちを忘れない」ということ。自分たちがこのスタートラインに立てること、走れること、それらを裏で支えてくれる人たちの存在を決して忘れてはならないということです。この場で全力の走りをして少しでも、感動を与えることが恩返しになるのではないかと考えています。来年からは標準記録が少し厳しくなってしまうのですが、必ず来年もあ

のスタートラインに立てるよう、部員一丸となって努力していきたいと思っています。

また、長距離ブロックではない、短距離、跳躍、投擲ブロックも近年目覚ましい活躍を見せています。短距離ブロックではリレー、マイルリレーで関東インカレに出場。なんと、毎年、大学ベストも更新しています。跳躍、投擲ブロックでは国公立26大学(現時点)対校戦で入賞、そして、優勝と他大学から注目される存在になりました。これも、先輩から後輩へのバトンが上手くつながり、今こうして大成したのだと思っています。

3 地域とのつながり

私たちは競技以外にも、活動をすることがあります。それは、審判活動や競技会運営です。小学生の陸上教室に参加をしたり、県内の競技会の審判をして地域の方々との交流を深めています。また、私たちはその審判の経験を活かして自分たちで、競技会を開いています。地域の小、中学生を対象とし、1000人近くの選手が参加しています。彼らが力を発揮できるように、私たちも全力でサポートしています。このような貴重な経験をさせていただけるのも群馬県の陸上関係者様、陸上競技部OB、OGのおかげだと思っています。こういった地域貢献への取り組みが私たちを成長させていくのだと、実感しています。

4 これからについて

私たちは「競技力向上」を最大の目標として活動していますが、地域とのつながりも非常に大切にしています。これからも予選会や対校戦で今までよりもっと良い結果を出せるように日々、精進していくのももちろんのこと、それと並行して審判活動や、陸上教室、競技会運営に携わっていき、地域とのつながりも良いものにしていきたいと考えています。私はもうすぐ、この陸上部に入って4年目になります。やはり、感じているのは先輩方の偉大さ。先輩から後輩への意思が継続して伝わればこの部活はもっと大きくなりもっと良くなっていきます。そうなるように私たちが努力を絶やさず、頑張っていきますので、これからも応援のほどよろしくお願い致します。



ふるさとを語る

日本編その35 岐阜県

『身近な自然と織田信長に出会える岐阜』

金華山と長良川

岐阜県は3千メートル級の山々を抱え世界遺産の白川郷や高山がある飛騨と、木曾、長良、揖斐の三川が流れる美濃に分けられます。県庁所在地の岐阜市は名古屋から電車で20分と近く、経済や文化、歴史に深いつながりがあります。

岐阜市には照葉樹で覆われた金華山があり、天然鮎が獲れる長良川が流れています。子どものころにはよく家族で金華山に登り、長良川で泳ぎました。この町では身近に自然と出会うことができます。

織田信長と岐阜

JR岐阜駅を降りると黄金の信長像が出迎えてくれます。岐阜に帰ったとき信長像を見るとほっとします。

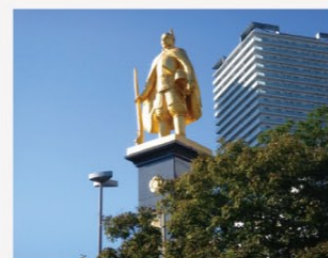
2017年は織田信長が入城し「岐阜」と命名してちょうど450年目の年でした。斎藤氏が治めていたこの場所を攻め落とし、井ノ口と呼ばれていた地を中国の故事から「岐阜」としと言われています。標高329mの金華山には岐阜城があり美濃が一望できます。信長はこの地を拠点に天下統一に乗り出しました。金華山の下を流れる長良川では、毎年5月から10月まで鮎を獲って鮎を獲る伝統的漁法「長良川鮎釣」が行われます。7世紀頃から行われている鮎釣を見せる(魅せる)ものとしての信長だったそうです。

新名所「ぎふメディアコスモス」

2015年に完成した、岐阜市民の新しい憩いの場が「ぎふメディアコスモス」です。ここには市立図書館や市民活動交流センター、展示ギャラリー等が入っており、「知」「絆」「文化」の新たな発信の拠点になっています。家族連れや中高生、イベントや会議と様々な人たちが集まってきます。日本を代表する建築家の伊藤雄雄さんが設計され、薄い木材で組まれ曲面をえがく屋根とグローブと呼ばれる空間が様々な人々を包み込む、岐阜の新名所になっています。



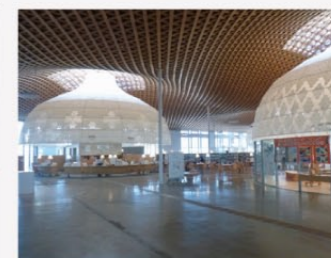
金華山と長良川



岐阜駅で出迎えてくれる黄金の信長像



1300年の歴史がある長良川鮎釣



新名所「ぎふメディアコスモス」



海外編その34 ベトナム

『美味しい食事と美しい景色が楽しめるベトナム』

知る人ぞ知るベトナムのサパ!

ベトナムは、北から南へ伸びたS字状の形をした国で、南北では気候が大きく異なっています。北部は緩やかに四季があるのに対して、中部と南部は雨季と乾季があります。そして、雪が降らないと思われがちなベトナムですが、実はサパで雪が降ることもあります。ハノイから北西に約380kmの高原都市であるサパには、ベトナム最高峰のファン・ジ・パン山があるからです。サパは民族衣装を着たモン族、ザイ族などの少数民族に会えるところです。毎週日限定で大きな市が開かれ、たくさんの少数民族の人たちでにぎわいます。とても楽しいです。

豊かなベトナムの食文化

ベトナムといえばフォーをはじめ、たくさんの美味しい食べ物があります。忙しい朝は家庭で作るより町の屋台で食べる方が常識になっています。朝ご飯にフォーを食べると、元気が出て今日も頑張ろうという気持ちになるように感じます。また、ベトナムの生春巻きも世界的に有名で、日本でも食べられるお店がたくさんあります。生春巻きは米粉を使ったライスペーパーにエビ、レタス、ピーマンなど好みの具を包んだベトナムの代表料理のひとつです。一方、生春巻きに劣らず人気があるのが揚げ春巻きです。この揚げ春巻きはひき肉やきくらげ、春雨などをライスペーパーに包んで揚げたものです。ベトナムの食べ物は皆安くてとても美味しいです。

世界に誇るハロン湾

私の出身地はクアンニンです。クアンニン省ハロン市の南には、世界遺産の一つであるベトナムが世界に誇るハロン湾があります。大小様々な奇岩や小島で構成されていて、その数は3000以上に上ります。ハロン湾観光はツアーでクルーズ船に乗って行きます。そして、ハロン湾には、美しい洞窟だけでなく、海もあります。1994年にユネスコ自然遺産に指定されて以来、外国人観光客に注目されている最も有名な観光エリアです。2011年には「生涯に一度は行ってみたい世界遺産ランキング」の10位にランキングされ、今後も世界各地からの観光客を魅了し続けるでしょう。



サパ



フォー



フォーと生春巻き



ハロン湾

鶴鷹祭 かくようさい

第51期体育会本部 代表幹事
地域政策学部 4年 門屋 太雅

近年、負けが続いていた鶴鷹祭。しかし、昨年第43回鶴鷹祭を先輩たちが勝利でつなげてくれた。第44回鶴鷹祭は高崎経済大学創立60周年ということで2年連続で高崎経済大学を会場として行われた。今年も必ず勝つという強い気持ちで都留文科大学に立ち向かった。

都留文科大学と行う総合体育対抗戦である「鶴鷹祭」。この鶴鷹祭では普段見ることのない他部活の試合や、友人たちがいつもとは違う面持ちで真剣にプレーしている姿を見ることができ、体育会員たちにとっても充実したものであった。また、試合、懇親会の中で他大学との交流ができ、いい経験になったと思う。結果は、見事に高崎経済大学が2連覇を果たすことができた。この流れで来年は都留で高崎経済大学の力を見せつけて、3連覇、4連覇と高崎経済大学には連勝街道を突っ走って欲しい。

最後に、鶴鷹祭の運営にあたり、学長をはじめとする諸先生方、学生支援チームの皆様、地域住民の皆様、そして体育会員の皆様、至らぬ点もあったと思いますが皆様のご協力のおかげで無事、鶴鷹祭を大きな問題、事故なく開催することができました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第44回鶴鷹祭 試合結果表
平成29年6月17・18日 於：高崎経済大学

種目	高経大	都留大	MVP & 敢闘賞
空手道	○ 2	● 0	東 玲人
陸上競技	○ 33	● 22	菊池 琢哉
男子ソフトテニス	● 2	○ 3	堀 龍之介
女子ソフトテニス	● 1	○ 2	山口 美羽
ラグビー	○ 50	● 5	前原 正和
ソフトボール	○ 4	● 3	武石 拓也
男子ハンドボール	○ 36	● 29	亀田 奏斗
女子ハンドボール	● 17	○ 21	林 しずく
男子剣道	● 1	○ 2	福岡 優樹
女子剣道	○ 2	● 1	塚田 葵
男子バレーボール	○ 2	● 1	松田 一真
男子卓球	● 3	○ 4	大橋 厚太
女子卓球	● 1	○ 3	浅野くるみ
柔道	○ 4	● 1	長瀬 涼介
男子バドミントン	○ 5	● 0	安本 武弘
女子バドミントン	● 1	○ 4	小原 侑奈
男子硬式テニス	○ 5	● 4	出島 夏樹
女子硬式テニス	○ 4	● 3	山口奈々江
男子バスケットボール	○ 95	● 75	村松 尊
女子バスケットボール	● 54	○ 85	石井 美帆
総合成績	● 12	○ 8	

※表中○が勝ち、●が負け、数値が得点



三扇祭 みつおうぎさい

第60回三扇祭実行委員会 委員長
経済学部 3年 越田 桃華

今年は11月2日から5日の4日間に渡り、第60回三扇祭を開催しました。本学の創立とともに歴史を積み重ねた三扇祭も、地域の方や学生により愛されるものになったのではないかと思います。そんな今年の三扇祭のテーマに「好きです。高経。」と掲げ、様々な伝統のある高経をこれまででも、そしてこれからもずっと愛していきたいという想いを込めました。また、60回の節目の年の運営に携わることが出来たことに感謝し日々活動して参りました。

今年の三扇祭も天候に恵まれ、沢山の方にご来場いただきました。花火の打ち上げや芸能企画を含め多くのステージ企画が盛り上がり、60回に相応しい三扇祭を創り上げることが出来たと思います。学生を含め、多くの方に楽しんでいただけたのであれば幸いです。実行委員も楽しく4日間運営させていただきました。また、今年のテーマと同様に来場された皆様が本学により愛着を持つお手伝いが少しでもできたのではないかと思います。

最後になりますが三扇祭の開催にあたり、多くの方のご支援、ご協力をいただきました。この場をお借りしまして、実行委員を代表して御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



たがけい INFORMATION



就職支援

OB・OGによる就職相談会が開催されました

毎年恒例となっている「OB・OGによる就職相談会」が、今年も開催されました。同窓生である社会人との交流は現役生にとって就職活動を行ううえでの心構えや、業界・企業研究のヒント、学生時代の過ごし方など、多くの有益なことが学べる貴重な機会となっています。

東京会場

10月21日(土)にチサンホテル浜松町にて「OB・OGによる就職相談会 in 東京」が開催されました。このイベントは東京及びその近郊在住の本学卒業生が組織する「東京三扇会」主催によるものです。当日は同会副会長の関口史人氏(清水建設(株)勤務)による就職セミナーから始まり、関口氏の他12名の若手同窓生によるブース形式の相談会が行われ、学生たちは真剣な眼差しで同窓生の話に聞き入っていました。その後行われた懇親会には、同会会長の長尾裕氏(ヤマト運輸(株)代表取締役社長)をはじめ多数の同窓生に合流いただき、リラックスした雰囲気の中、積極的に同窓生に話しかける学生たちの姿が見られました。

高崎会場

11月25日(土)に本学7号館において「OB・OGによる就職相談会 in 高崎」を開催しました。全国から多くの同窓生にお集まりいただいたこのイベントも今年で8回目を迎えました。当日はまず初めに同窓生である(株)ジャックス取締役上席執行役員の尾形茂樹氏より「社会人になる学生の皆さんへ」という演題でご講演いただきました。先輩からのメッセージは、これから社会に向かってはばたく学生たちにとって大変貴重なものとなりました。その後行われた地域別・業種別の相談会や交流会では、学生からの質問に対し、同窓生の皆さんに丁寧にお答えいただきました。



OB・OG就職相談会in東京



OB・OG就職相談会in高崎

キャリア支援センターからのお知らせ

キャリア支援センターでは、各種ガイダンスやセミナーといった就職支援事業を行っています。今後、実施予定のイベントについてお知らせいたします。積極的に参加してください。各イベントの詳細はメールやホームページ、または学内掲示板等でご確認ください。

●お問い合わせ=キャリア支援センター：電話027-344-6263

	開催日時	事業名	対象学年	申込
1月	17(水)	16:00~17:30	GDセミナー	学部3年生・院1年生 要申込
	22(月)	16:00~17:30	SPI試験(言語・非言語)Web体験受験会 全2回(ほか1/26)	学部3年生・院1年生 要申込
	23(火)、26(金) 2/6(火)、9(金)、13(火)、16(金)	17:45~	グループディスカッション実践練習会	学部3年生・院1年生 要申込
	24(水)	16:00~17:30	模擬面接セミナー	学部3年生・院1年生 要申込
2月	10(土)	終日	OB・OGによる模擬面接会	学部3年生・院1年生 要申込
3月	1(木)、2(金)、5(月) 13(火)~16(金)	12:30~16:30	合同企業説明会	学部3年生・院1年生
随時		10:00~17:00	就職相談会	全学年 要申込

後援会

学生奨学金について

学生の学業と生活支援を目的とした給付型奨学金制度です。給付額は各学期授業料の2分の1相当額もしくは3分の1相当額です。なお、対象者は授業料減免対象者の中から、特に成績優秀な学部学生を学期ごとに選定しています。(今年度の対象者の選定は終了しました。)

TOEIC成績優秀者表彰について

TOEIC公開テストで700点以上を獲得した学生に表彰状と記念品を贈呈します。現在、今年度分の申請を受け付けています。該当する学生は平成30年2月28日(水)までに申請書を提出してください。

高経会館について

大学より徒歩5分のところに建つ宿泊・研修施設です。宿泊室は全て個室となっており、学生だけではなく、保護者や同窓生の皆さまもご利用いただけます。遠方から高崎にお越しの際には、ぜひご利用ください。

支部総会を開催しました

9月の関東甲信越支部総会を皮切りに11月まで、全国7支部で開催しました。

今年も多くの保護者の皆さまにご出席いただき、教員や同窓生と成績・就職等様々なことについて意見交換が行われました。

なお、来年度の予定は平成30年7月頃にホームページにてお知らせいたします。

●お問い合わせ＝後援会事務局：電話027-344-7902



支部総会：関東甲信越支部



支部総会：東北支部

今回の表紙

「日本語リテラシー」の授業風景です。
この日は3回目のグループ分け。
ゴール課題に向け、熱心に授業を受けています。

同窓会支部総会のお知らせ

今年度は、下記の支部にて総会が行われました。多くの同窓生にご参加いただき、大変ありがとうございました。

平成30年度の開催予定につきましても、詳細が決まり次第、同窓会のホームページにてお知らせいたします。

●お問い合わせ＝同窓会事務局：電話027-344-6262

支部	開催日	開催場所・時間	参加人数
桐生支部	4月22日(土)	美喜仁本店 17:00～	17
栃木支部	5月27日(土)	ホテルサンルート佐野 17:00～	20
石川支部	8月26日(土)	ホテル日航金沢 17:00～	24
富山支部	8月26日(土)	五万石千里山荘 16:30～	23
宮城支部	9月23日(土)	ホテル白萩 15:00～	41
新潟支部	9月30日(土)	万代シルバーホテル 16:00～	23
オホーツク支部	10月 7日(土)	北見ピアソンホテル 18:00～	13
札幌支部	10月14日(土)	センチュリーロイヤルホテル 17:00～	63
広島支部	10月21日(土)	メルパルク広島 17:00～	20
三重支部	10月28日(土)	四日市シティホテル 17:00～	18
長野支部	10月28日(土)	メルパルク長野 15:30～	47
岩手支部	11月 9日(木)	ホテルニューカーリーナ 18:00～	17
関西支部	11月11日(土)	新大阪ワシントンホテルプラザ 16:00～	43
鹿児島支部	11月11日(土)	ホテル・レクストン鹿児島 15:00～	16
飯田支部	11月18日(土)	ホテル弥生 17:00～	21
四国合同支部	12月 2日(土)	松山全日空ホテル 16:30～	30
大分支部	12月 2日(土)	良の家 18:00～	22
福井支部	12月 9日(土)	一えい 18:00～	23
徳島支部	1月20日(土)	ホテルアストリア 17:30～	※

※徳島支部は本誌編集時点で未実施

「宅配便ロッカー」を設置しました

本学敷地内に「宅配便ロッカー PUDOステーション」を設置しました。スマートフォン等の普及に伴い、ネットショッピングが増加していますが、日中は不在にしがちな学生の皆さんが宅配便の受取を大学内で出来るようになります。

首都圏では、駅やスーパー、コンビニエンスストアを中心に広がりを見せていますが、大学への設置は、全国で2例目となります。また、群馬県内では館林市のスーパーマーケットへの設置に続く2例目となっています。

- 設置場所 本学正門左側来賓駐車場内(東和銀行ATM隣接)
- 利用時間 午前7時30分から午後11時まで(入構制限日は利用不可)
- 利用運送会社 ヤマト運輸・DHL(その他運送会社も順次追加予定)

